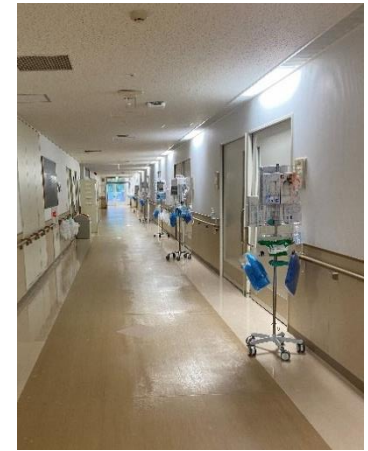
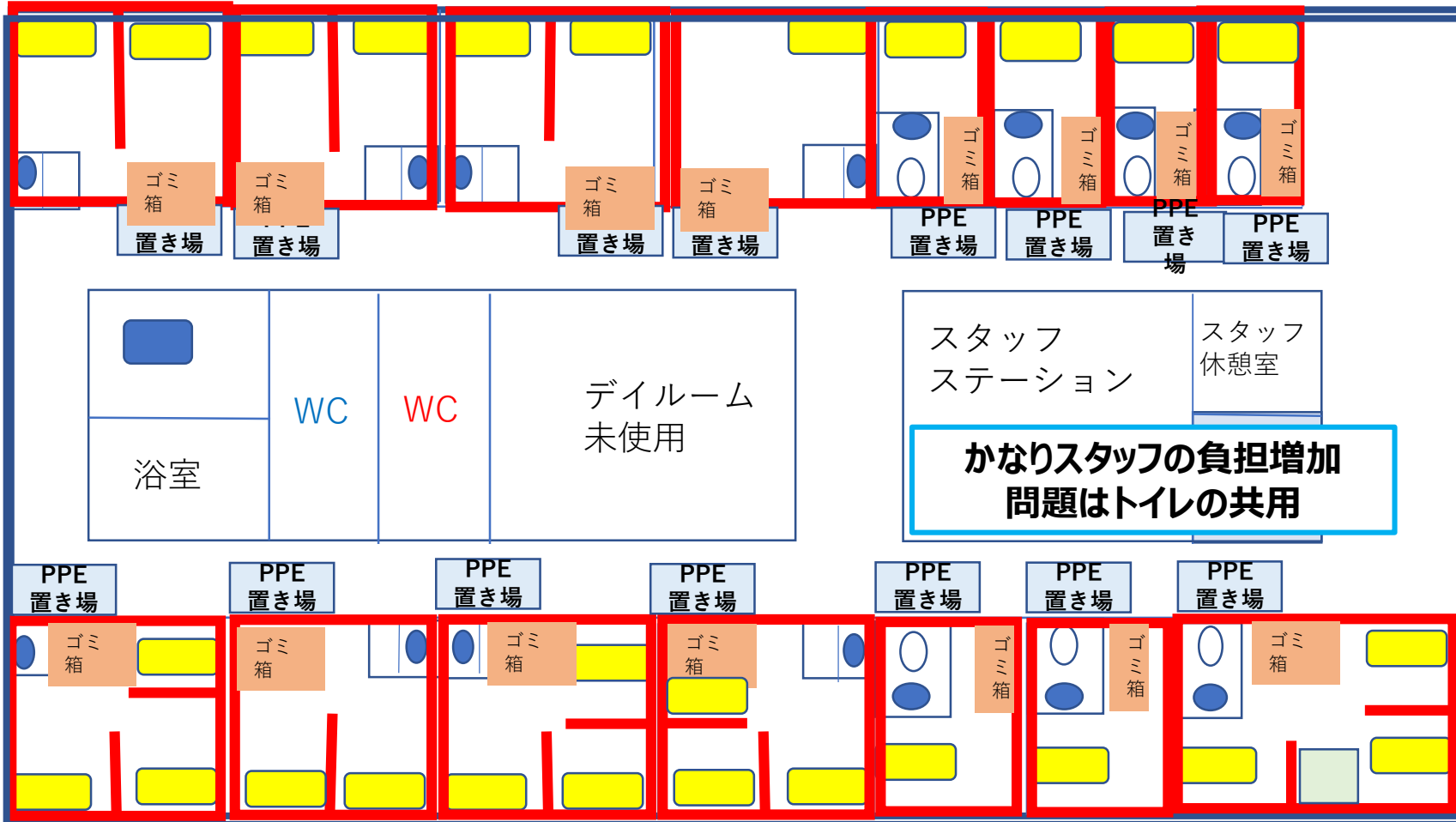


表1：利用者・職員に感染判明した場合の対策

- 個室で食事・排泄・清拭管理
- 共用スペースは原則使用禁止
- 各居室内がレッドゾーン、その他はグリーンゾーン
- ガウンと手袋は各部屋の前に用意し、そこで着用、部屋を出るとき脱いで出る。多床室では患者毎に取り替える。
- 各居室の換気扇を24時間常時稼働させる。換気扇がなければ適切に定期的換気を行う。

フロアレイアウトとPPE着脱



各部屋前にPPE置き場を



各部屋出口手前の室内でPPEを脱いで手指衛生

居室がレッドゾーン、その他の空間はすべてグリーンゾーン設定
各部屋の入り口にPPE置き、患者ごとにPPE交換・手指衛生
多床室は、患者同士の接触を避けるため可能なら衝立設置

作図：国立病院機構長良医療センター 加藤達雄統括診療部長 安江亜由美感染管理認定看護師

表 1 : 高齢者施設で使用するPPE

常に着用するPPE

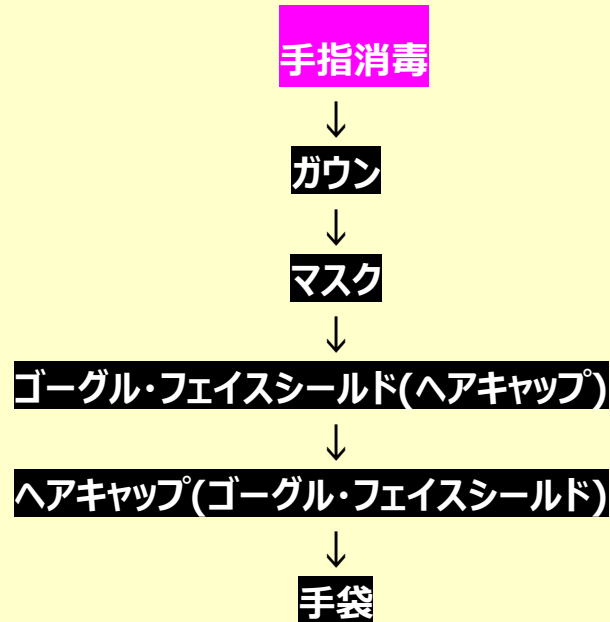
- サージカルマスク(1日1枚)
- フェイスシールドあるいはゴーグル(1日1回消毒)
(利用者がマスクを着用不可の場合が多く、難聴者との大声会話もある)
(入浴時は曇り対策でアイガード利用も考慮)
- キャップ
➡いずれも手で触れて位置修正の際には、直前に手指衛生

追加で着用するPPE : 1名毎に取り替え!

- ガウン : 体液・血液・汚物・吐物などに直接接触する可能性がある場合
- 手袋 : //
- N95マスク : 喀痰吸引時
(サージカルマスクをアウターにN95マスクはインナーに着用)
(N95マスクは1週間程度持続使用可能)

図1：PPE着脱手順

【着る手順】



【脱ぐ手順】

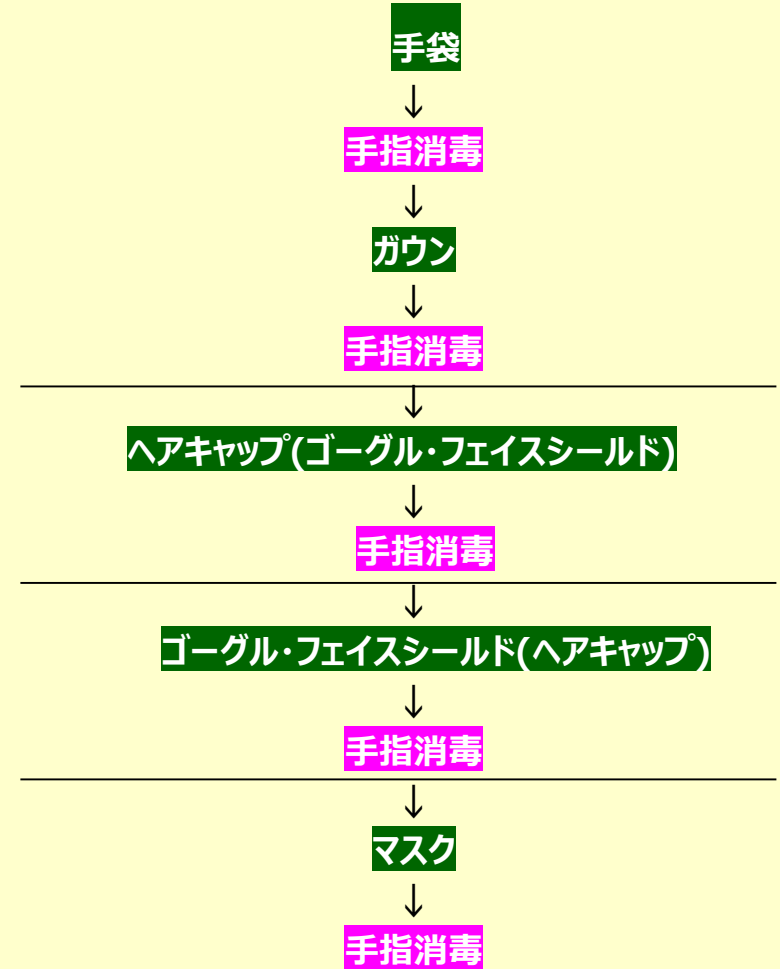


表2：寝衣・リネン・食器・ゴミ等の取り扱い

● 寝衣・リネン

- ・部屋を十分換気し、マスクに加え、フェースシールド、手袋、ガウン着用で交換する。
- ・ビニール袋に包んで運び出す。
- ・家庭用洗濯機で通常の工程での洗濯で必要にして十分。
- ・ウイルスは界面活性剤である洗剤で消毒可能。

● 食器

- ・手袋を着用したうえで通常通り下膳、食器洗浄工程に回せば問題ない。
- ・陽性者が出た場合はディスポが安心・安全

● ゴミ

- ・ゴミはビニール袋に包んで72時間放置(一時保管場所を設定)

表3：環境整備方法

●共用部分やリハビリ機器の消毒

- ➡大事なポイントではあり、1日の回数とタイミングを決め、丁寧に行う
- ➡重要なことはむしろ環境整備より手指衛生
- ➡消毒薬は原則としてアルコール
- ➡環境にアルコール等消毒薬スプレーを噴射し、後から布等で清拭する方法は好ましくない
- ➡布のほうにアルコールを噴射して十分含浸させてから清拭
- ➡陽性であった入居者が退室したあとの部屋の環境整備は、72時間部屋立ち入り禁止にしてから実施すればリスクは極めて低くなる

表4：PCR検査と勤務継続の可否

- 利用者・職員全員にPCR検査します。
- 濃厚接触者と認定された場合は、PCR陰性でも7日間自宅待機
- 濃厚接触者ではなくPCR陰性であれば、通常の標準的PPE着用して業務継続可能。
- 自宅に戻っても基本マスク着用で、自室で基本は過ごす。調理はマスクと手洗いで可能だが喫食は単独で。入浴や洗面も単独で。

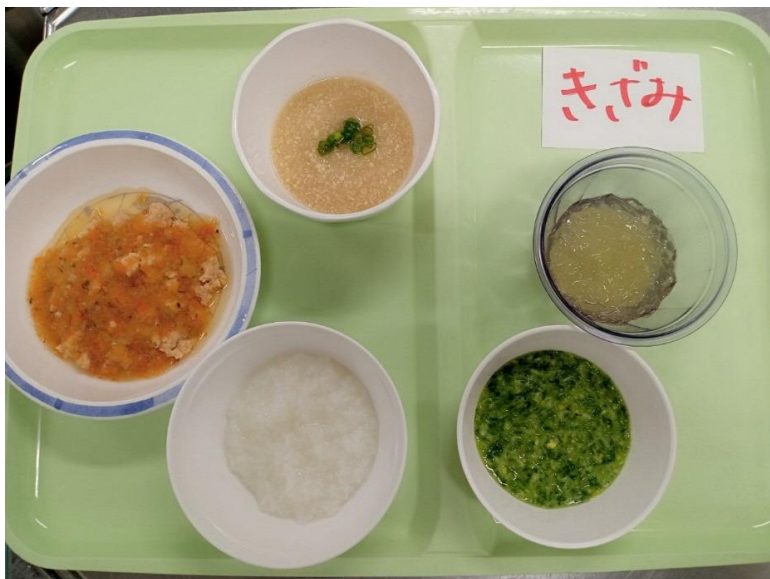
職場で検査対象者が出た場合

- 1. 職員本人ではなく、その家族や接触していた友人などが、すでに陽性判明している他の患者の濃厚接触者としてPCR（抗原）検査対象者となった場合**
➡そのPCR（あるいは抗原）検査結果が判明するまで自宅待機とする。
PCR（抗原）検査陰性であれば、出勤再開可能。
- 2. 家族や接触した友人などのPCR（抗原）検査陽性の場合**
➡職員自身がPCR（抗原）検査対象となるので、向こう7日間は自宅待機とする。陰性であっても2週間は自宅待機とする。
- 3. 検査対象職員が陽性であれば、入院となる。**
➡保健所の指示に従って調査に協力し、センター内の濃厚接触者は検査対象となり、結果のいかんにかかわらず7日間は自宅待機となる。この場合検査対象にならなかった職員は、通常通りの勤務継続可能である。

濃厚接触者の基本定義 = 「1メートル以内、15分以上の接触」



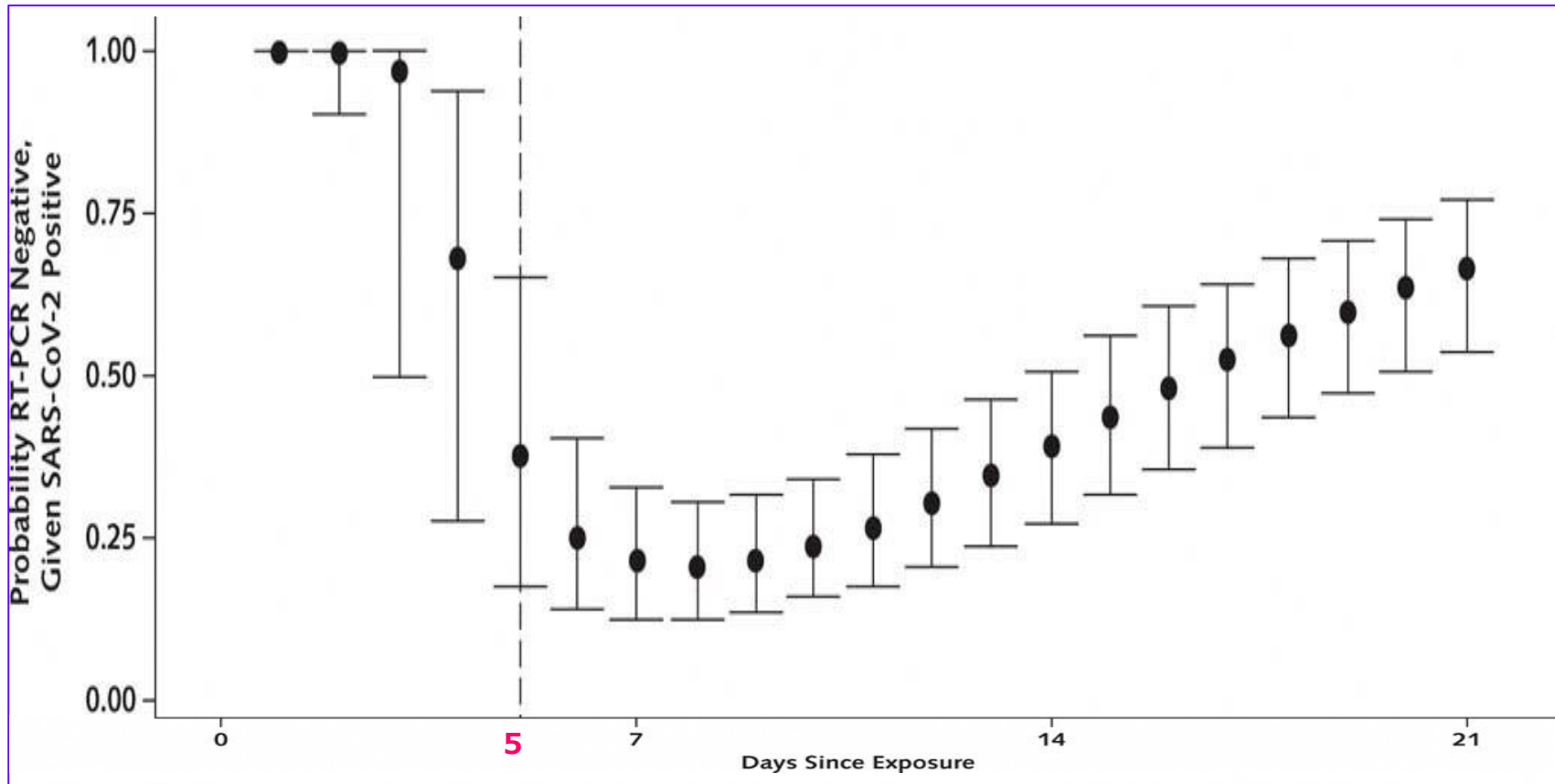






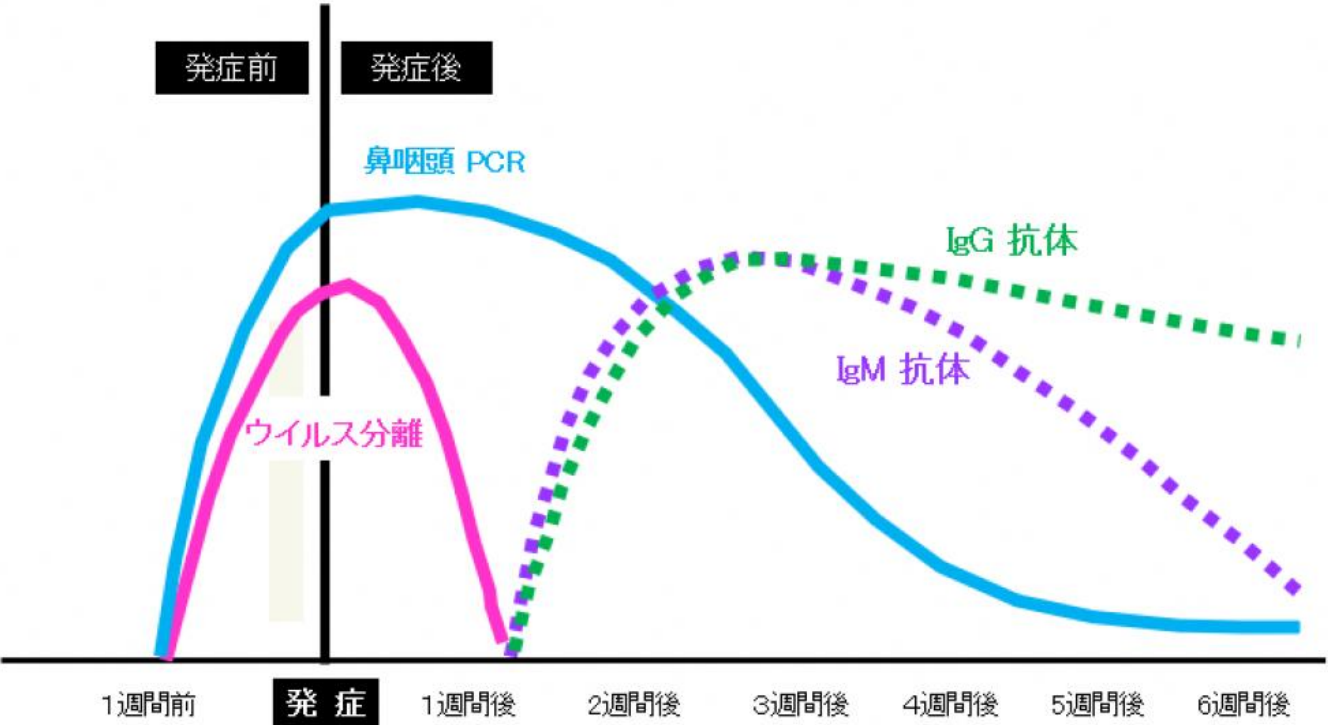


RT-PCR検査が陰性でもSARS-CoV-2に感染している確率 (曝露後の日数で表したもの)



日本感染症学会 COVID-19検査法および結果の考え方より (2020/10/12)

図 1. COVID-19 発症前後で予測される検査結果



Sethuraman N *et al.* JAMA. 323:2249-2251, 2020.より和訳して引用